

都市と里山の循環を生み出す
棚田の「通い農」プロジェクトin越後松代

2025年3月4日

星 裕方（十日町市地域おこし協力隊/㈱里山パブリックリレーションズ代表）

本日のアジェンダ



1. イントロダクション
2. 「通い農」の聖地化プロジェクトについて
3. 「企業研修」の聖地化プロジェクトについて
4. 「棚田ステーション」について
5. まとめ

新潟県は日本有数の「棚田県」



十日町市



(引用元) 特定非営利法人棚田ネットワーク「棚田の分布」より
<https://tanada.or.jp/tanadadate/distribution/>

十日町市は「つなぐ棚田遺産」全国最多の認定数



一市町村として最多

14/271



(引用元) 十日町市HP「選定棚田位置図」
<https://www.city.tokamachi.lg.jp/material/files/group/16/ichizu.pdf>



#星峠の棚田
投稿
1.6万
件

フォロー中

人気投稿



#儀明の棚田
投稿
912
件

フォロー中

人気投稿



#蒲生の棚田
投稿
752
件

フォロー中

人気投稿





#星峠の棚田
投稿
1.6万
件

星峠の棚田

約30ha、約200枚

新潟
自然4選

2町耕作の方が
来年度の耕作面積を
大規模に縮小予定

5選

夏休みに行きたい！
観光
スポット

#儀明の棚田
投稿
912
件

儀明の棚田

約5ha、約47枚

儀明の一本桜の前の田
今年の干魃と今年の倒伏で
大幅に収量減

#蒲生の棚田
投稿
752
件

蒲生の棚田

約3.5ha、約43枚

今年の干魃と今年の倒伏で
大幅に収量減

2023年の大干ばつ、2024年の倒伏と厳しい2年間



第2909号

https://www.t-shinbun.net

1965年(昭和30年)4月1日第三種郵便物承認

妻有新聞
TSUMARI SHINBUN

2023年(令和5年)
10月7日 第2909号

発行所:株式会社妻有新聞社
十日町支局 TEL 025-765-5227
〒949-0067 十日町市千歳町2-3-5
津南支局 TEL 025-765-2215
〒949-8201 津南町下船渡丁2461-2
E-mail info@t-shinbun.com
FAX 025-765-5106

コメ等級落ち深刻 1等9%台

十日町・津南共に3等米2400円加算

JA十日町

12月 円千に0 津南 025-765-5100

苗場山

津南之地酒蔵

http://www.naebasan.com

苗場酒造株式会社 TEL(025)765-2011 FAX(025)765-5100

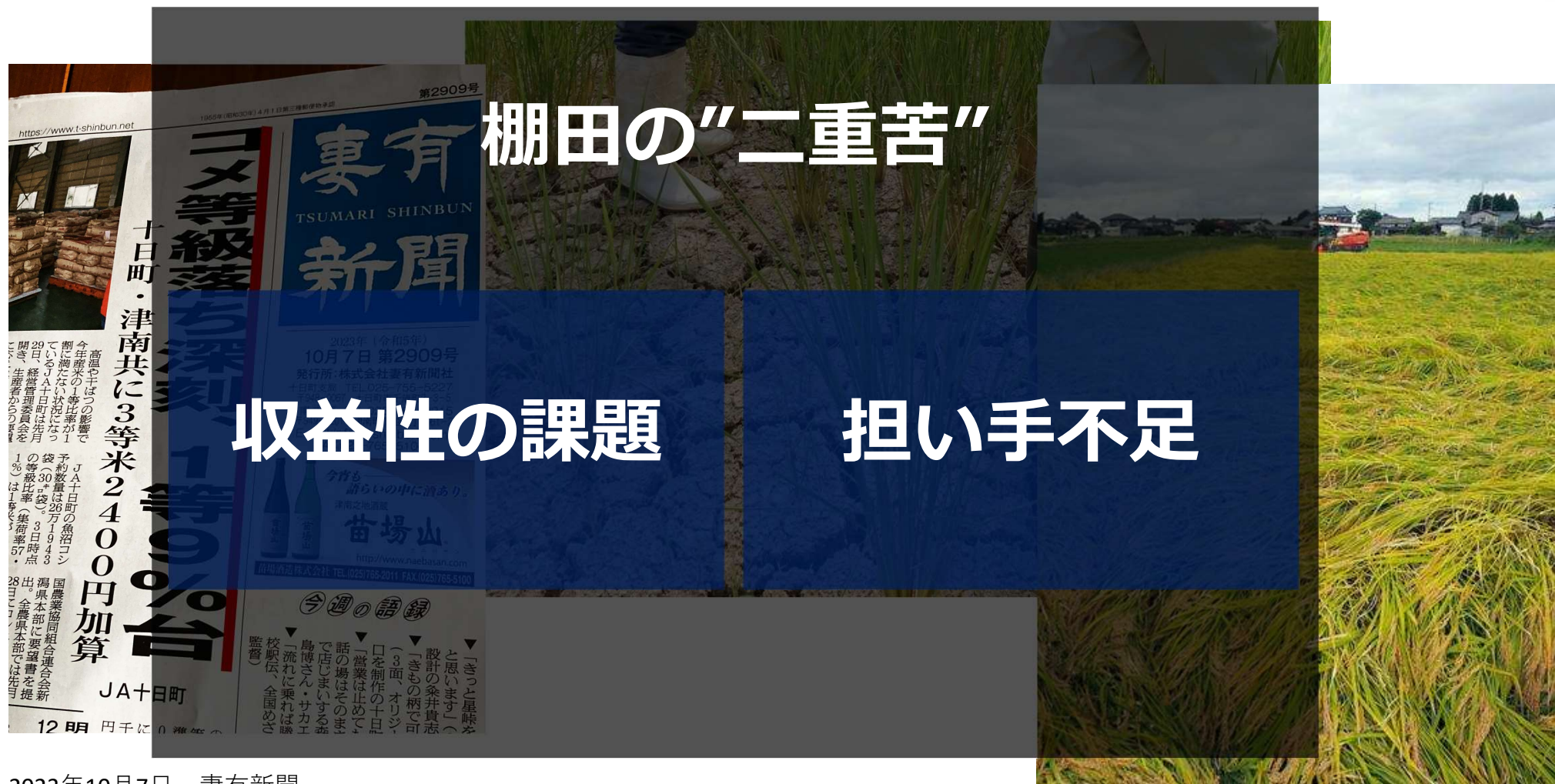
今週の語録

「きつと星峠を
とります」
設計の糸井貴志
「きもの柄で可
(3面)オリジ
口を制作の十日
話の場は止めて
で店にまいする
島博さん・サカ
「流れに乗れば勝
監督」



2023年10月7日 妻有新聞

2023年の大干ばつ、2024年の倒伏と厳しい2年間



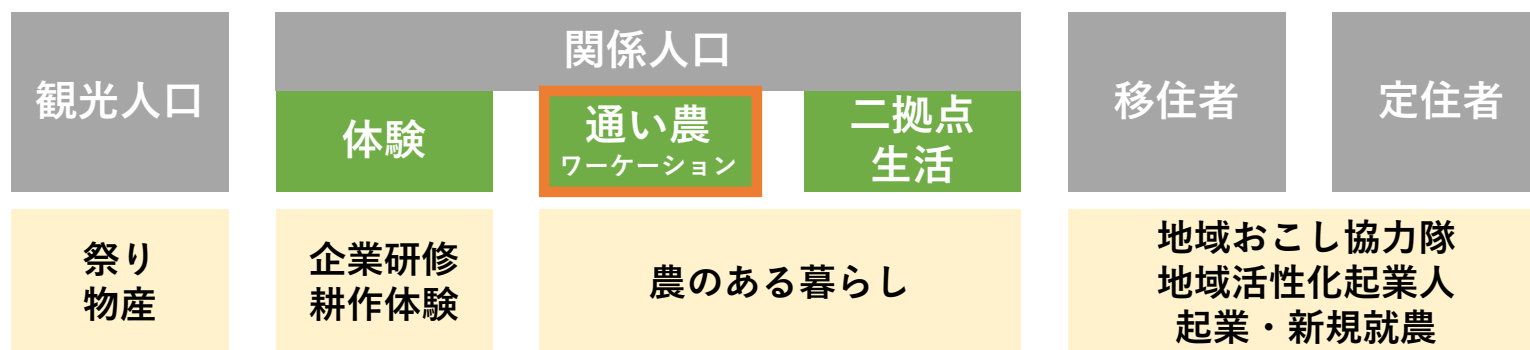
2023年10月7日 妻有新聞

「通い農」の可能性



＜仮説＞「関係人口」にもフェーズがある

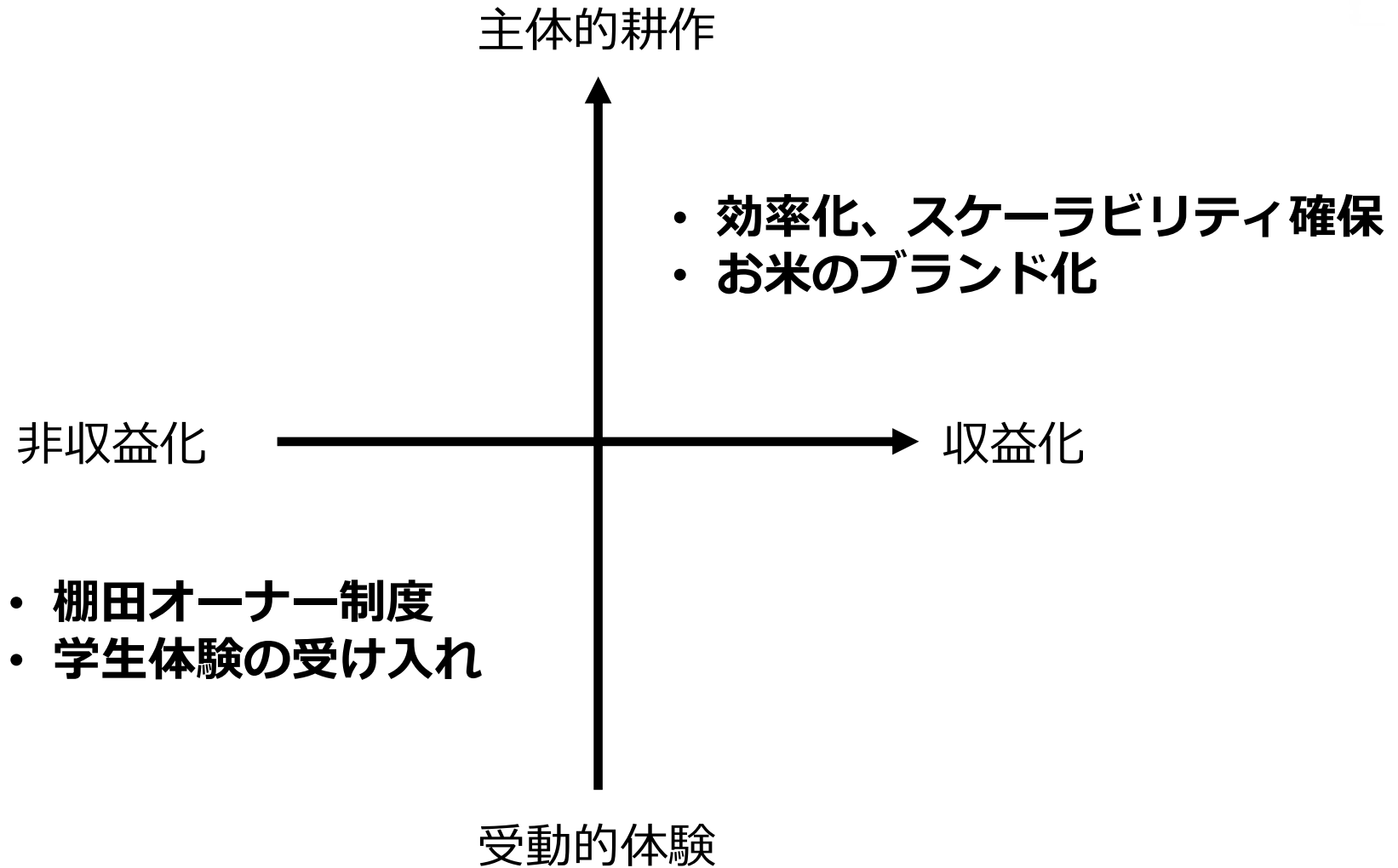
→“体験”からまずは“通い農”に発展し、その先に“二拠点生活”や移住定住へつなげるステップを作る



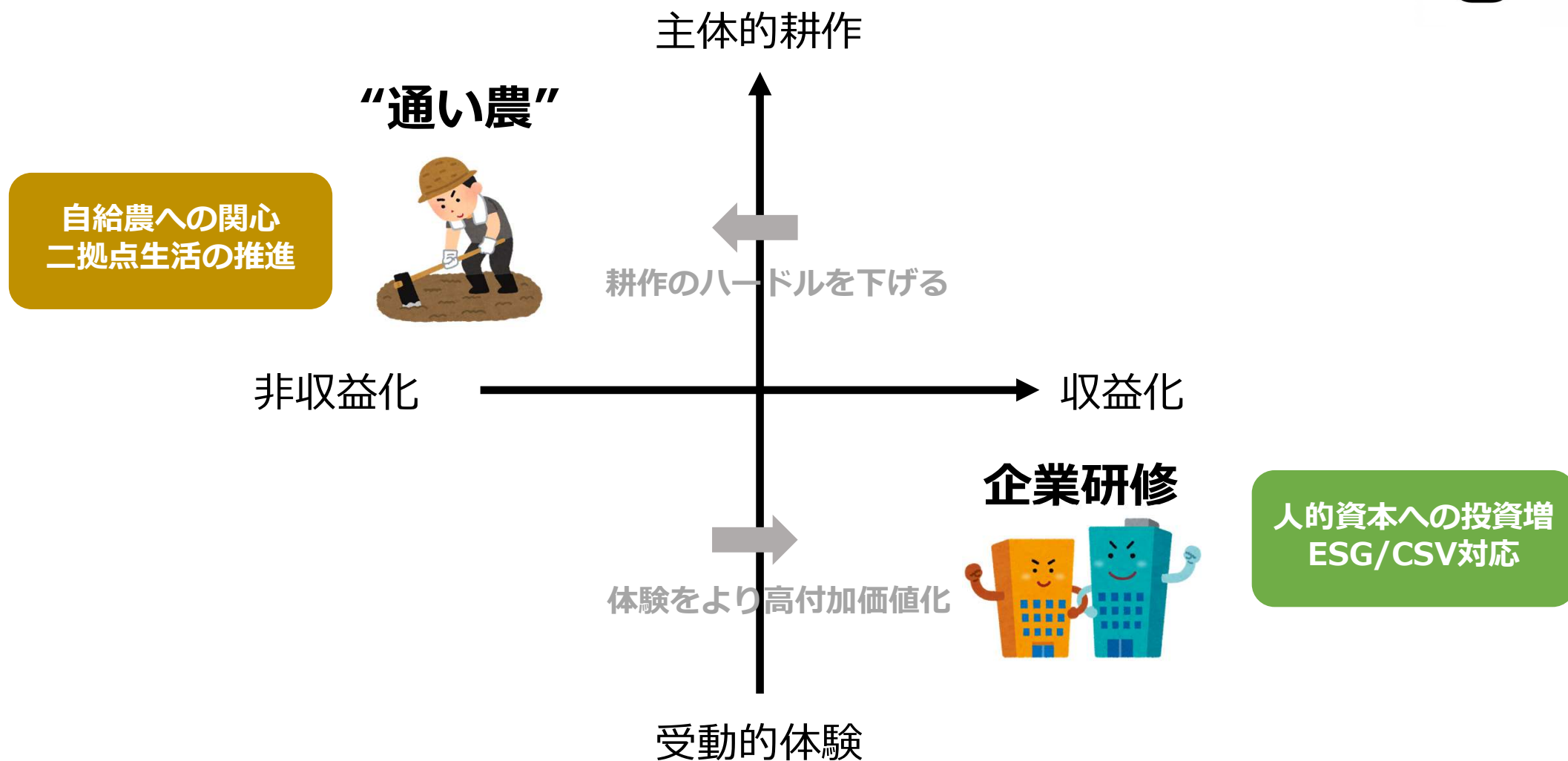
“通い農”とは

主に都市部といった地域外に住む人が
耕作主体として、里山に通って
田畑の保全に関わる**ライフスタイル**

なぜ“通い農”と“企業研修”なのか？



なぜ“通い農”と“企業研修”なのか？



“通い農”と“企業研修”の聖地へ



「通い農」の聖地化プロジェクト



「企業研修」の聖地化プロジェクト



相互に
誘い込む

「棚田ステーション」計画

棚田体験に必要な作業道具、ロッカー、着替え場所、
コワーキングスペース等を備えた施設を整備(2025年春OPEN予定)

ヒトの循環を生み出す



カネの循環を生み出す

“通い農”と“企業研修”の聖地へ



「通い農」の聖地化プロジェクト



「企業研修」の聖地化プロジェクト



相互に
誘い込む

「棚田ステーション」計画

棚田体験に必要な作業道具、ロッカー、着替え場所、
コワーキングスペース等を備えた施設を整備(2025年春OPEN予定)

ヒトの循環を生み出す



カネの循環を生み出す

2024年～都市住民を中心とした “通い農”による耕作の実証実験を開始

- 約7畝(700m²)の田を復田
- 減農薬農法（微生物農薬、自然由来防虫剤の使用）
- 復田、田植え、手除草、稲架場づくり、稲刈り、脱穀
まで計6回のイベントを企画し田の1年を体験



2024年5月 ジョソササイズ春の陣

…復田した田の“ガマの根”を除去



2024年6月 田植え

…田枠方式と紐方式の両方で7畝分を田植え



2024年6月 田植え

…ネーミングも「ヨ〜イ! みんなの棚田」に決定



2024年6月 ジョソササイズ夏の陣

…クサネム、コナギなどの雑草を除去



2024年7月 松代中学校 特別授業

…総合学習の時間でジョソササイズ&生物観察



2024年8月 稲架場づくり

…小荒戸集落の笠原等さん協力のもと、設営



2024年9月 稲刈り・稲架がけ
…2日目に小荒戸集落で稲架がけまで完了！

2024年10月 収穫祭@タマリバタケ
…東京・世田谷区のコミュニティ農園で収穫祭開催

2024年11月 いちべえさんと収穫祭
…棚田ハウスで新米を試食

2024年11月 いちべえさんと収穫祭
…糠を散布して、田んぼじまい（秋代せず）

こだわったポイント①：減農薬農法の実証



「完全無農薬」に対する憧れはある一方、
実際に「通い農」で行う上で必要な対策は講じる必要あり。
減農薬農法に関する勉強会の開催などを通して理解を得た。



こだわったポイント②：オープンなコミュニティ



当初、東京・世田谷のメンバーを中心に立ち上がったコミュニティだが、
新潟市、千葉市など多方面からのメンバーも増え、
Facebookグループでの交流促進を通してオープンコミュニティとなるよう努めた



ヨ～イ！みんなの棚田【越後松代】

公開グループ・メンバー65人



ディスカッション 注目 イベント メディア ファイル メンバー



こだわったポイント③：収量に応じた配当米



「棚田オーナー制度」では一般的な”配当米の最低保証”をせず、
耕作会員の作業参加時間に応じて、収量を按分していくという方式で配当。

「来年はもっと工夫して収量を上げたい」等、
「通い農」としてのモチベーションアップにも繋がっている

「ヨ〜い！みんなの棚田」配当米リスト

耕作ポイント（3時間以上/日=4pt、3時間以下/日=2pt）

名前	ベースポイント (口数×10pt)	耕作ポイント	合計ポイント	配当米(kg)	5/4ジョンサ サイズ春の陣	6/1田植え	6/29ジョンサ サイズ夏の陣	8/11稲架場つ くり	9/14クサネム ジョン	9/15稲刈り 9/16稲架掛け	その他日程
合計	250	272	522	65	48	44	32	24	16	48	22
	10	10	20	2.5	4	0			2	4	
	10	22	32	4.0	4	4	4	4	2	4	
	10	22	32	4.0	4	4	4		2	4	4
	10	10	20	2.5	4	0			2	4	
	10	18	28	3.5	4	4	4			4	2
	10	16	26	3.2	4	4	4			4	
	10	26	36	4.5	4	4	4	4	2	4	4
	10	18	28	3.5	4	4	4		2	4	
	10	12	22	2.7	4	0		4		4	
	10	30	40	5.0	4	4	4	4		4	10
	10	18	28	3.5		4	4	4	2	4	
	10	4	14	1.7		4					
	10	4	14	1.7		4					
	10	10	20	2.5				4	2	4	
	10	4	14	1.7		4					
	20	0	20	2.5							
	10	2	12	1.5							2
	40	0	40	5.0							
	10	4	14	1.7	4						
	10	4	14	1.7	4	0					
	10	4	14	1.7						4	
	0	30	30	3.7	4	4	4		4	4	10
	0	8	8	1.0		4				4	
	10	0	10	1.2							

こだわったポイント④：メディアを通したPR



活動自体を広く知ってもらうため、
「通い農」という社会記号を意識的に用いてPR活動を実施。
23件ものメディア露出に繋がった

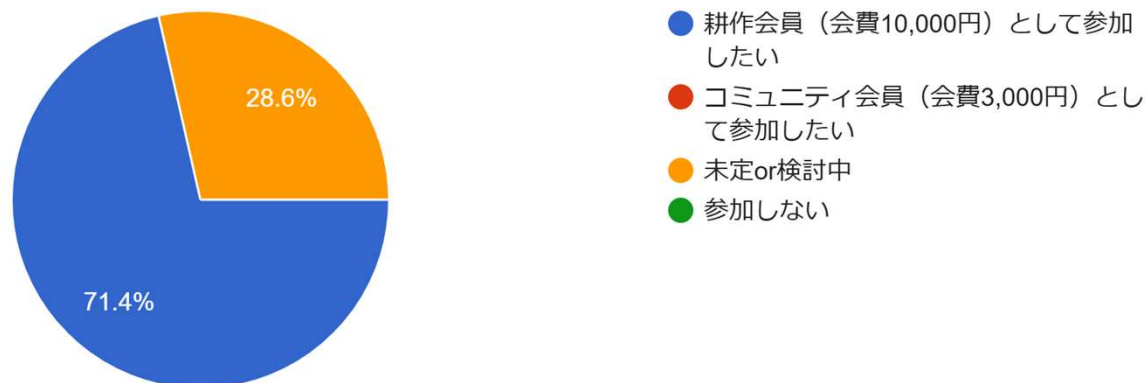


アンケート結果①



**参加者（耕作会員）のうち70%以上が、
2025年度の会員継続を希望**

来年度の「ヨ～イ！みんなの棚田」参加意向を教えてください
14件の回答

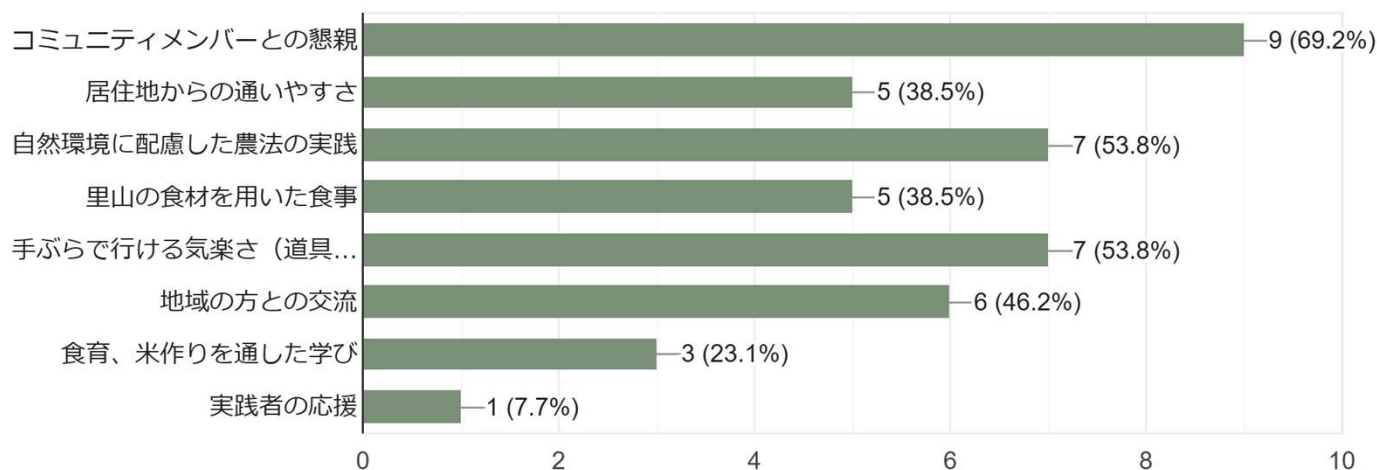


アンケート結果②



参加者が「通い農」で重視するのは、 「コミュニティメンバーとの懇親」「自然環境に配慮した農法」 「手ぶらで行ける気軽さ」

都市部から通いながら棚田耕作をする際に、重視し...3つまで教えて下さい（自由選択、自由記述可）
13件の回答

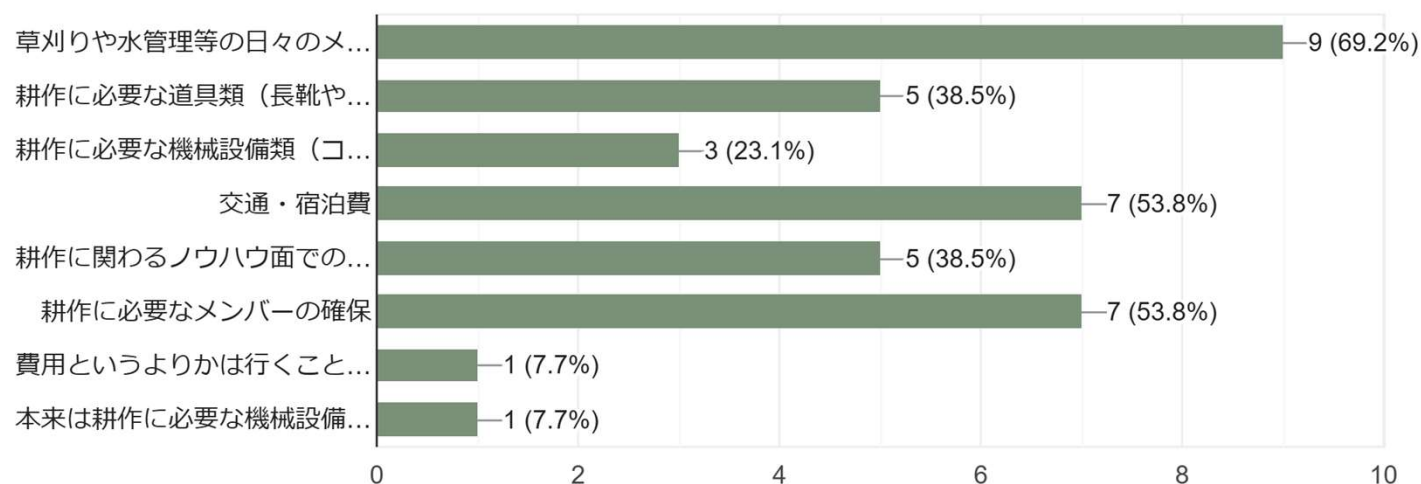


アンケート結果③



参加者が「通い農」でハードルに感じるのは、 「草刈り・水管理等の日々のメンテナンス」「交通・宿泊費」 「耕作に必要なメンバーの確保」

都市部から通いながら棚田耕作をする際に、ハードルを感じることを教えてください（自由選択・自由記述）
13件の回答

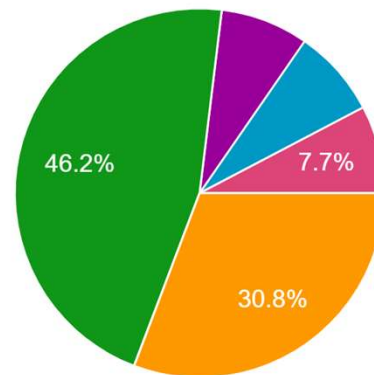


アンケート結果④



参加者（耕作会員）のうち3割は、
「長期的な人生設計の中で、いつかは自分の田んぼを持てたい」

松代では非常に多くの耕作放棄地が存在します。上...となる可能性として最も近いものを選んで下さい
13件の回答



- 条件の良い場所が空いていれば、すぐにも自分の田んぼを持てたい
- 2~3年以内に、自分の田んぼを持てたい
- 長期的な人生設計の中で、いつかは自分の田んぼを持てたい
- 自分の田んぼを持たなくても良い
- 所有ではなく、コモンズとして共同利...
- 田んぼに限らず、畑等での土いじりは...
- 関わる通い先が多いため、今回のよう...

“通い農”と“企業研修”の聖地へ



「通い農」の聖地化プロジェクト



「企業研修」の聖地化プロジェクト



相互に
誘い込む

「棚田ステーション」計画

棚田体験に必要な作業道具、ロッカー、着替え場所、
コワーキングスペース等を備えた施設を整備(2025年春OPEN予定)

ヒトの循環を生み出す



カネの循環を生み出す

棚田体験イベントで挙がった声



着替えスペースが少ない
農作業中の貴重品の管理が不安

長靴を購入しても荷物になるので
持ち帰りたくない



農作業の合間でも、パソコンを開いて
テレワークできる場所があると便利

棚田体験イベントで挙がった声



FOR 棚田地域の活性化

棚田の"通い農"を身近にする「棚田ステーション」計画

星裕方（十日町市地域おこし協力隊/榊里山パブリックリレーションズ代表）



「棚田ステーション」のコンセプト
都市と里山の人々が交わる「棚田の駅」

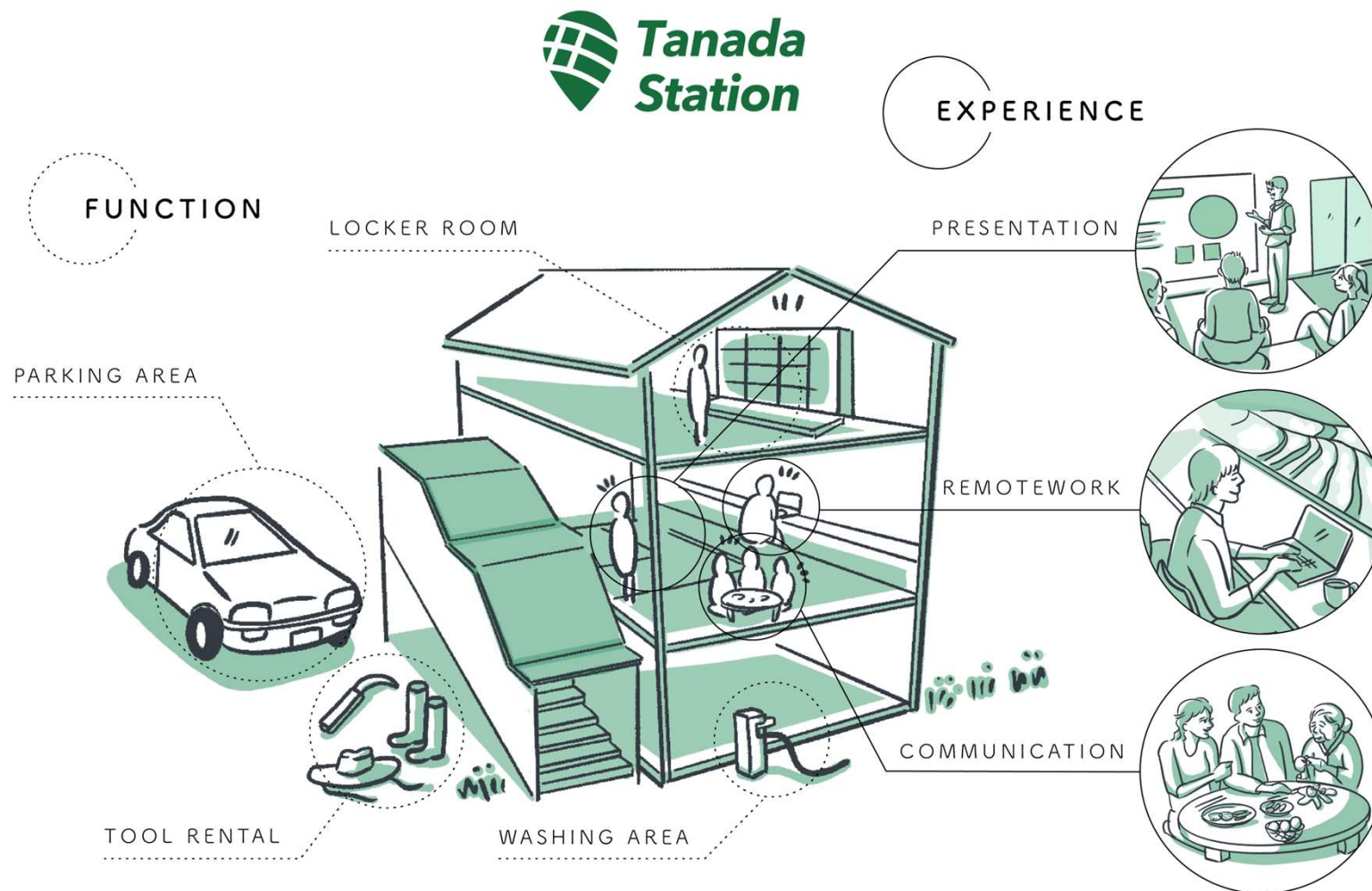
「棚田ステーション」は、都市の余力と里山の余白を繋ぐ「棚田の駅」。

棚田から始まる様々なストーリーの出発地点です。

旧農協施設を借り受け、改修実施



「棚田ステーション」の機能・特徴



「棚田ステーション」の機能・特徴



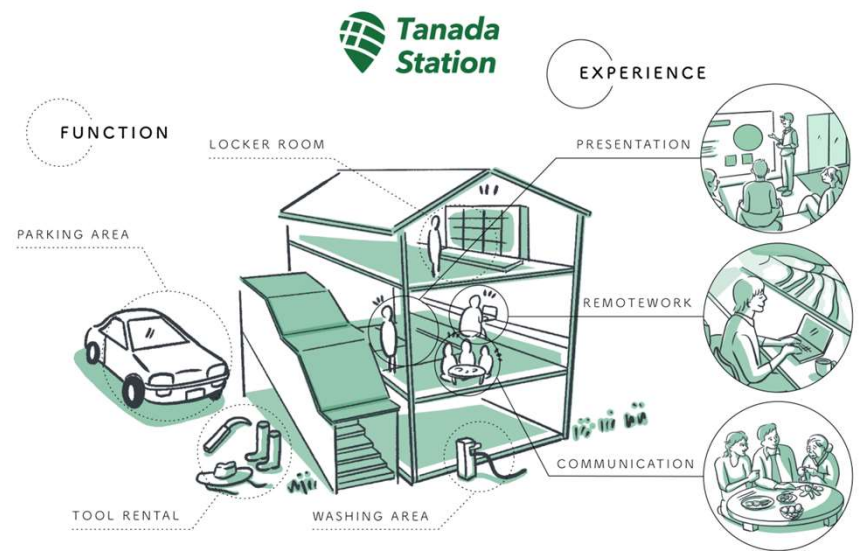
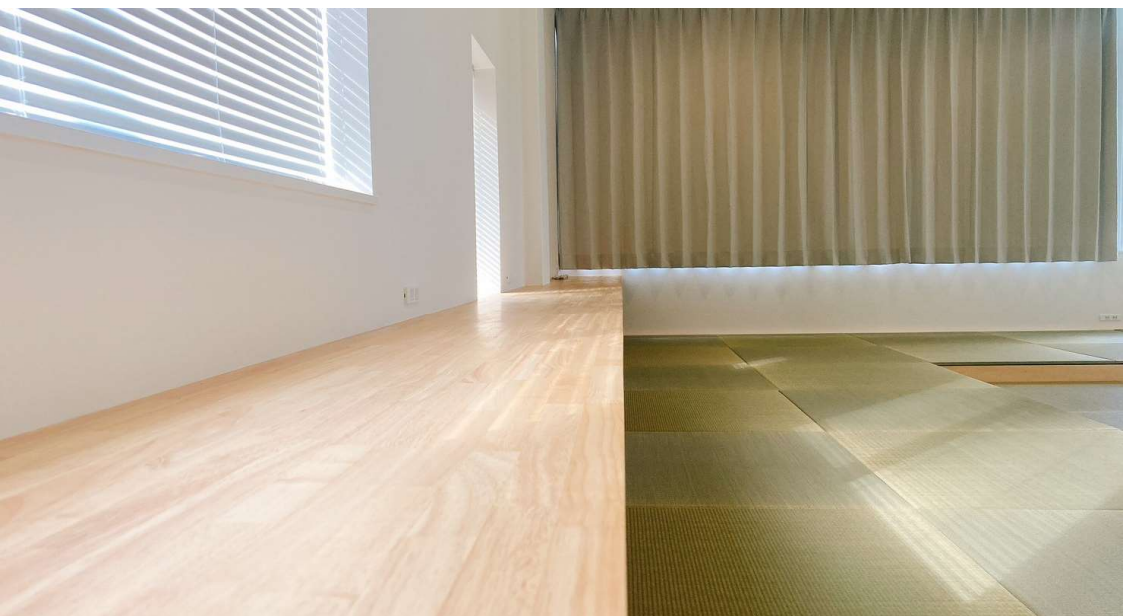
リモートワーク



プレゼン発表



お茶のみ



「棚田ステーション」の将来の姿



- ・ 棚田を用いた様々な研究・実証実験の活動拠点
- ・ 地物の食材をすぐ調理して食べられるシェアキッチン
- ・ ラストワンマイルモビリティの発着場所



【主な機能】

- ◎水温・水位をIoTセンサーでリアルタイムに計測
- ◎基準値を超えたタイミングで通知 ※水門操作も可能
- ◎チャット機能など充実のコミュニティ機能搭載

- コミュニティチャット機能
- 専門家への相談機能
- 作業カレンダーの共有機能
- 水門の遠隔操作機能
- メンバー管理機能



※画像はイメージ



※画像はイメージ



まとめ



「通い農は、令和の出稼ぎ文化」

- かつては里山から都市へ「お金を稼ぎに行く」出稼ぎ
- これからは都市から里山へ「農作物を稼ぎに行く」出稼ぎ
- 昭和までの出稼ぎが経済的安定を求めるならば、令和の出稼ぎは文化的・精神的安定を得る新しいライフスタイル



中山間地農業は市場の失敗？

否「都市住民のニーズに向き合えば、新たな価値が生まれる」

- 対企業ではCSRや福利厚生、チームビルディング研修等の予算を地方と結びつけ、都市の資本が里山に循環する仕組みをつくる
- 対個人ではウェルビーイング、健康、教育、ワーケーションなど、都市のニーズに応える多面的な収益源と人流を確保
- 買い手ありきの「農業」ではなく、都市住民の参画によるライフスタイルとしての「農」へ



「平地は大規模集約型、中山間地は小規模分散型で生き残る」

- 大規模集約型で効率を高める農業と、小規模分散型で価値を生む農（多面的価値を収益源とした農業/ライフスタイルとしての農）の共存
- それぞれの持続可能性を認めることが健全な農業の未来
- 小規模分散型においては、「小さく投資ができること」が最も重要。数百万円もする農業機械を導入すると、どうしても大規模集約型にならざるを得ない。そこが悩ましい…



補助金は“大きく、複雑”ではなく“小さく、簡単に” 通い農直払いの仕組みを

- 里山に必要なのは「大規模プロジェクト」ではなく、「小さな支援」の積み重ね
- 通い農のための、機動的で柔軟な直払い制度を導入するのはどうか
- →交通・宿泊費の補助や、圃場整備（代かき等）・草刈り・水管理等を地域の方に委託するための助成
- 現状の直払いの「多面的機能支払交付金」がそれに当たる？ただし地域の合意形成が必要なのと、国の会計検査が厳しく遡及返還の要項もあるため、どうも萎縮しがち。
- 実施主体を“通う人”（またはそれをコーディネートする人）サイドに置けるとよい
- 会計検査の主体がもっと自治体（国県市ではなく支所ベース）に移譲された助成金が必要。動脈的な支援から、毛細血管的な支援へシフト